

## 令和5年度 がん教育の実践研修会

千葉市立千葉高等学校  
教諭 渡辺 貴儀

### 1 はじめに

- (1) 本校の概要と特徴本校は昭和34年に開校し、昭和45年には理数科を設置した。現在の本校は、進学重視型の単位制高校として、多様な選択科目を設定し、質の高い授業ときめ細やかなキャリア教育や進路指導を行っている。また、令和4年度から「スーパーサイエンスハイスクール」の第Ⅳ期の研究指定を受けている。また、今年度から3回目となる重点枠の研究指定を併せて受けている。この重点枠では、海外へ目を向けた科学技術系人材育成の一環として、生徒たちが韓国の高等学校との共同研究に取り組んでいる。「強く 明るく より高く」を本校の校訓として掲げ、次の世代を担う有為な社会の形成者の育成を目標に職員一同、日々の教育活動に尽力している。

### 2 授業実践

#### (1) がんについて

がんは現在、日本人の死因第1位となっており、年間約38万人が、がんで亡くなっている。これは亡くなる方の3人に1人に相当する数である。また、日本人で生涯のうちにがんにかかるのは、男性65.0%、女性50.2%と言われている。そこで健康教育の一環として、がんについて正しく理解し、自他の健康と命の大切さについて学び、ともに生きる社会づくりのために必要な資質や能力の育成が必要とされている。

#### (2) がん教育の目標

①がんについて正しく理解できるようにする。がんは、身近な病気であること、適切な生活習慣を送ることでがん予防につながる事、早期発見や早期治療が大切であること、定期的ながん検診を受けることが重要であること。正しい知識を身に付けられるようにする。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。がんという病気を通して、患者だけでなく、関わる人や社会全体が自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、互いに支え合い、ともに生き「生活の質」を大切にしようとする態度を育成する。

#### (3) がん教育（授業）指導方針

①保健体育科保健分野1時間「生活習慣の予防」の内容から学習し、日本人の死亡の原因第1位であるがんについて、その内容を取り上げる。授業では、パワーポイントを活用し、がんの発生要因、がんの予防と早期発見について取り上げ、がんの基礎的な知識と、がんの予防や進行、早期発見の大切さについて、生徒自身が考える場面を設定しながら授業を展開していく。

#### ②保健体育科保健分野1時間（外部講師を活用した授業）

基本的な知識を習得した上で、がん患者に対して普段心掛けていることや、大切

にしていることについて外部講師である看護師に、講演していただく。また、医療現場では、具体的に緩和ケアについてどのような取組をしているかを聞き、日本で行われている「がん患者との共生」について学ぶ。そしてそれらの話を聞いた上で、生徒一人一人が今後自分にできることについて考えを深める場面を設定していく。

③保健体育科保健分野 1 時間

外部講師を活用した授業を受けて、がんについての理解を更に深めたいことを「がんに関する社会的な取組み」「がんの予防と早期発見」「がんとその発生要因」の3つの題材に分けて生徒自身が調べて深めていく授業の場面を展開していく。

(4) 外部講師を活用した授業の展開

段階	学習内容と活動	○教師の指導・支援
導入 3分	<p>1. 講師を紹介する。</p> <p>2. 本時の授業の内容を確認する。 ～本時の内容～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>がんの種類や発生要因、がんの予防について理解する。 がんの共生についての取組みを理解する。</p> </div>	<p>○教師の指導・支援</p> <p>○本時は外部講師の方とがんについて学習することを知らせ、学習意欲を高めさせる。</p> <p>○授業中にがんについて考えることが苦しい時は無理に続けなくてもよいことを伝える。</p> <p>※「授業中にトイレや体調が悪くなった際は無理せず、周りの先生に申し出てください」と生徒に配慮した伝え方にする。</p>
展開 (45分)  7分          7分	<p>講演開始</p> <p>3. 「がん」について必要な知識を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんは身近な疾患であること、そして不治の病ではないことを理解する。</li> <li>・日頃からがん予防のために気を付けるべきことについて触れ生活習慣の改善についても理解する。</li> </ul> <p>4. がんの仕組みや原因について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の変異が起き、異常な細胞が増えていくこと。</li> <li>・がんの種類について理解する。</li> <li>・早期発見、早期治療、がん検診の重要性を理解する。</li> </ul> <p>→早期発見による5年後の生存率は高い。</p>	<p>○がんは特別な疾患・病気ではないため、自分や家族、また身近な人が罹る可能性は高いということを理解させる。</p> <p>○がんという疾患は「すぐ死ぬ不治の病」だということは過去の医学常識であったことを知ることで、前向きに治療できることに気付かせる。</p> <p>○日頃からの生活習慣の改善が、がん予防につながることを理解させる。</p> <p>○がんの恐怖を生徒に伝えるのではなく、がんは早期発見、早期治療により治すことのできる病気であることに気付かせる。</p>

<p>11 分</p> <p>20 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診を定期的に行うことが重要であることを理解する。</li> <li>・原因不明のがんもあることを理解する。</li> </ul> <p><b>5. がんの治療法について理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの治療には「手術療法」「薬物療法」「放射線療法」の方法があることを理解する。</li> <li>・本時では「薬物療法」「放射線療法」を取り上げ「薬物療法」、「放射線療法」の現場の動画を視聴する。</li> </ul> <p><b>6. がんの治療に必要な支援と、共生について理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に患者さんとのエピソードを伝え、患者さんの視点になってさまざまな感情や葛藤があることを理解する。</li> <li>・がんによって起きる様々な不安を、医師や緩和ケアチームとの連携、協力により軽減することができる。</li> <li>・緩和ケアの現場の動画を視聴し、緩和ケアについて理解する。</li> </ul>	<p>○がんは必ずしも生活習慣や細菌、ウイルスが原因で発症する、というわけではないことを伝える。</p> <p>○誰にでも発症するリスクがあることを伝え、日々の生活が悪い、などがんに罹った他者を責めてしまわないようにする。</p> <p>○放射線療法には痛みが伴わないことを理解させる。</p> <p>○実際の治療現場の実態や状況を知ることが出来るように、動画を視聴させる。</p> <p>○緩和ケアなど、がん患者をサポートする体制が身の回りにあることに気付かせる。</p> <p>○一人でがんについて抱え込むのではなく、皆で協力してがんの回復に向かうことが重要であることを理解させる。</p>
<p>まとめ 2分</p>	<p><b>7. 本時のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答</li> </ul>	<p>○質疑応答の際、質問しやすい雰囲気を作るよう配慮する。</p>

(5) 授業後の生徒の感想 (一部抜粋)

<p>様々なサポートがあるとわかったので、もし患ったとしても怖くないなと思った。薬の副作用など、少し怖いこともあるが、一人で抱え込まなくても良いのだと思った。</p>
<p>とても印象に残ったのは、「がん患者の思い」です。私の友人ががんになってしまったら、やはり悲しいし精神的にも不安定になってしまうと思いますが、そのことよりもがんについて深く知り、もしものことがあってもサポートできるような環境を作ることが大事だと思いました。</p>
<p>今までは治らない病気というイメージがあったけど、今回の授業を通して早期発見の大切さや普段の生活を見直すことで治る可能性が変化する病気だということが分かりました。</p>
<p>日頃からの生活習慣をきちんとすることが一番の予防である。</p>
<p>「自分は絶対にならないから大丈夫」と思うのは間違いで、誰でもなり得る病気だから、検診をしっかり受けることが大切である。</p>

早期がんであれば9割の人が治ることが分かった。適度に運動することや、正しい食生活などをしてがんにならないように気を付けたい。また、今普通に生活できていることのありがたさを感じた。

がんにならないように定期的ながんの検査を受けて、出来る限りの予防をすることが大切であることを学んだ。がんになってしまってもすぐに治療すれば、治る確率が上がるから、すぐに気付けるように定期検査を受けることが大切であると思った。

遺伝的なものでも、がんになることを知った。また、定期的ながん検診が大切なことを知った。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

外部講師の現場経験や専門的知識を生かした授業を行うことで、生徒が前向きに学習に取り組む様子がみられ、がんについて真剣に考える素晴らしい機会になった。

本校の生徒の中には、がんという病気は、治らない病気なのではないか、罹ったらほとんどの人が死んでしまうのではないかなど、病気についての理解不足によって、恐怖感、不安感を持つ生徒がいた。しかし、今回の授業を通して、正しい生活習慣を送ることで、がんの罹患率を下げることができることや、検診により、早期発見、早期治療を行うことができれば、治る可能性が高まるということ等、正しい知識を理解することができた。また、外部講師から「がん検診の受診率が低い。もっと受診率を高めたい。」という思いを生徒が聞くことで、がんを予防するための社会的な取組の視点を持たせることができた。その他にも、がんは正しい生活習慣を送っていても、発症するリスクがあることを伝え、がんの発症にはさまざまな要因があることを生徒に伝えることができた。

何より、医療現場でがん患者やその家族と日常的に接している看護師の方の講話は、言葉一つ一つに重みがあり、生徒が授業に対して非常に意欲的であった。

#### (2) 課題

外部講師との連携、調整にかなり課題があると感じた。このがん教育授業は、生徒にとって影響力が大きく、事前打合せがとても重要である。そのため、講師の先生と実施校との細かい授業の流れを確認することが必要となる。今回、対面での打合せを一度行った後は、メールやZoomでのやり取りで打合せを進めてきたが、生徒にとって、より良い学びの機会にするためには、実際に講師の先生と会って確認することがとても重要であると感じた。

生徒の実態を把握している教員が「生徒に何を学ばせたい」のか、また、そのために外部講師に「どんな話をしてもらいたい」のかを事前に意見交換をする時間が「がん教育授業」を行う中で非常に重要であると感じた。